

## 建設設計／現場業務での デジタルグラフィックス活用強化宣言!

# Adobe Creative Suite 活用BOOK

建築や土木設計のCAD化はもちろんのこと、  
デジタルカメラでの現場写真撮影、CGによるフォトリアル  
あるいはスケッチ風のプレゼンシートも今や常識。  
建設設計／現場業務でのデジタルグラフィックス化は  
驚異的な速度で進展している。  
そんなデジタル化を強力に支援するのが  
統合グラフィックスソフト「Adobe Creative Suite 2」だ。

### Adobe Creative Suite 2.3 Premium 日本語版



含まれる製品 ● Photoshop CS2 /  
ImageReady CS2 / Illustrator CS2  
/ InDesign CS2 / GoLive CS2 /  
Acrobat 8 Professional / Version  
Cue CS2 / Bridge / Stock Photos  
/ Dreamweaver 8 (同梱)  
アドビストア価格 ● 197,400円 (税込)

### Adobe Creative Suite 2 Standard 日本語版



含まれる製品 ● Photoshop CS2 /  
ImageReady CS2 / Illustrator CS2  
/ InDesign CS2 / Version Cue  
CS2 / Bridge / Stock Photos  
アドビストア価格 ● 155,400円 (税込)

## デジタルデータの入力と 出力をつかさどる統合ツール

Adobe Creative Suite 2.3(以下、CS2)は、  
画像やCAD図面などのデジタルグラフィック  
スデータを自由自在に扱える統合ツールだ。  
CS2は複数のアプリケーションで構成されて  
おり、各アプリケーションで作成されたデータ  
は連携して利用できる。

Photoshop CS2は、画像の色調補正や  
写真のレタッチ修正、画像の合成などが行  
える画像加工ソフトウェアの定番ともいえる  
ツールだ。Illustrator CS2は、自由曲線と多  
くのフィルタや変形機能を使い、ベクターグ  
ラフィックスを扱えるツールで、CADとの互  
換性／親和性も高い。作成したグラフィック  
スデータをPDFに書き出したり、PDFデー  
タを開いて加工することも可能だ。ほかにも  
WebオーサリングのGoLive CS2、高度なレ  
イアウトデザインが行えるInDesign CS2、さ  
まざまなPDF書類を作成できるAcrobat 8  
Professionalなどで構成されている。

CS2の各アプリケーションで作成された  
データはBridgeと呼ばれるファイルブラウザ上  
で一括して閲覧できるほか、著作権フリーの  
デジタル写真提供を行うストックフォトにオン  
ライン経由で直接アクセスし、提案書に盛り  
込みたいイメージ写真などを即座に検索／購  
入することも可能だ。

## 多くの建設設計現場で Adobe CS2が使われる理由

CS2が多く使われる理由のひとつに、そ  
の普及率の高さが挙げられる。Photoshop  
とIllustratorはもともと、独立したアプリケー  
ションとして販売されていた。多くの現場で  
蓄積されたノウハウやユーザーの要望を機能  
として吸収／拡張し、長い年月をかけてユー  
ザーの支持を得てきた実績がある。もうひと  
つは互換性の高さにある。CADが出力した  
AIやEPS、PDFデータをIllustratorで開いた  
り、逆にIllustratorがCADの標準形式であ  
るDXF／DWGの読み書きにも対応している。  
Photoshopも画像フォーマットのほとんどを  
網羅している。このため、いったん作成した  
データを再利用したり、ほかのアプリケーショ  
ンでさらに完成度の高いイメージに加工したり  
と、グラフィックスを最大限に活用することが  
可能になるのだ。

## パースに設計者の意図や主張を盛り込むツールとして、Photoshopはもはや欠かせない

### シミュレーションの正しさと目を引くパース表現は別物だ

「パースの出来を左右する最大の要素は光。明暗を常に意識している」。富田和弘氏の建築CGパース作成の極意はシンプルだ。「今時のCGソフトなら平均点以上のレンダリング画像は作れる。表現を盛り込んだパースに仕上げることが重要」とも言う。

例えば、依頼主から「全体的に明るくしてほしい」旨の要望、設計者の「部分的に明るく」という指示。Photoshopで「明るさ・コントラスト」を調整するのが定番だが、明るさだけで調整しようとすると白っぽくなるため、コ

solution

01

「インテリアパースの明るさを調整すると、印象ががらっと変わってしまう」

## 明るさ／コントラストを調整したモノクロ画像を重ね、大胆&簡単補正

インテリアパースの明るさを調整する場合、Photoshopの「明るさ・コントラスト」ダイアログボックスで行うのが一般的かつシンプルな方法だろう。しかし、調整具合によっては、パースの色調が引きずられる形で変化し、印象が元のイメージとはがらっと変わってしまう

ことがある。そこでモノクロ画像のレイヤーを用意し、このレイヤーに対して「明るさ・コントラスト」ダイアログボックスで調整する。こうすることで、印象を変えずに明るさの調整が行えるようになる。

部分的な明るさを調整したい場合は、明るく

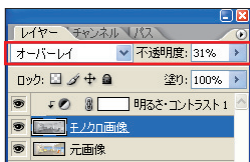
したいエリアを白で塗りつぶしたモノクロ画像のレイヤーを作成して元画像に重ね、ぼかしを加える。明るさの影響範囲は塗りつぶす形状を変えることで調整できる。

画像提供 ● 板橋中央総合病院グループ 株式会社ハンドベル ケア/建物名 ● 「アイムス赤羽」(東京都北区東十条)

### パース全体の明るさを調整する



元画像(左図)から[イメージ]メニューの[色調補正] - [彩度を下げる]でモノクロ画像を作成する(右図)。



元画像のレイヤーにモノクロ画像を[オーバーレイ]で重ね、不透明度を[31%]に設定する。

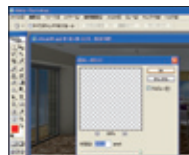


モノクロ画像に対し、[レイヤー]メニューの[新規調整レイヤー] [明るさ・コントラスト]を実行。[明るさ・コントラスト]ダイアログボックスで明るさ[-7]、コントラスト[+39]に設定する。

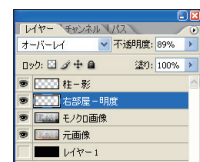
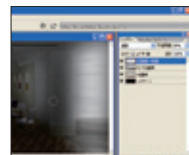
### パースの一部の明るさを調整する



元画像(左図)の明るくしたい部分(赤で囲んだ箇所)を選択し、白で塗りつぶしたレイヤーを作成する(右図)。



作成したレイヤーに対して[フィルタ]メニューの[ぼかし] - [ぼかし(ガウス)]を実行。[ぼかし(ガウス)]ダイアログボックスで半径を[250pixel]とする。消しゴムツールで、光の影響範囲を修正し、全体にあやを付ける(右図)。



レイヤーを[オーバーレイ]で重ね、レイヤーの不透明度を[89%]に設定する。



プロジェクト・リーダー  
富田和弘氏

社名 ● 大成建設株式会社  
URL ● <http://www.taisei.co.jp/>  
本店 ● 東京都新宿区西新宿1丁目25番1号  
設立 ● 1917(大正6)年12月28日  
代表取締役社長 ● 葉山亮児  
従業員数 ● 9,465名(2006年4月1日現在)  
事業内容 ● 国内外の土木/建築の設計/施工のほか、エンジニアリング、  
エコロジー、都市開発、不動産、住宅など幅広い分野で展開

ントラストを併用することになる。しかし、調整具合によっては彩度が大きく変わり、元のイメージと異なってしまふ。あるいは、指示箇所を部分的に補正すると、元々明かった箇所が暗く感じられる。バランスを取ってそちらも明るく…、を繰り返した挙げ句、奥行き感がない画像に。原因は「明るく」した結果イメージの欠如と、レンダリングへの過信にある。「レンダリングによるシミュレーションの正しさは、パースにはさして重要ではないもの。明るさは人間の脳が感覚的に判断する」からだ。「暗いところは暗く、明るいところは明るく」の富田流を実現するのが、補正したモノクロ画像を重ねる方法。部分的に明るくする

手法も同様、光を当てたい箇所を切り取ったり、消しゴムツールでぐいぐい消していく。大胆だが効果的な補正方法だ。(→solution 01)  
著名建築家のパース作成にも携わった経験を通じ、「パースはプレゼンテーションのツールとして、設計者の意図や主張を表現するもの。単一のレンダリングでは不可能な表現もありだ」との意を強くしたと語る。

### InDesign をワークフローの中心に据えた新プレゼン体制

コンペ方式による設計発注の増加を受け、大成建設でも提案資料の品質を重視。エ

ディトリアルデザイナーと連携するワークフローを確立しつつある。レイアウトツールに InDesign を選定。図面やパースなど、盛り込む素材の中間ファイルとして PDF を採用した。その中で俄然注目され、使用頻度が高まっているのが、Illustrator による PDF の解析/修正機能だという。(→solution 02)

プレゼンテーショングループは、同社のプレゼン業務を一手に引き受ける部署として 2006 年 6 月に創設されたばかり。富田氏が培ったスキルの伝承、エディトリアルデザインを本格的に取り入れた新体制で、定評ある大成建設のプレゼンにさらに磨きがかかることは間違い無い。



調整後の最終画像。元画像の天井面の明るさがアンバランスだったため、天井面の明るさも調整してある。



最終画像。上記手順中、モノクロ画像は作業内容がわかりやすいよう、画像を暗くしている。

## solution 02

### 「作成ソフトに戻ることなく、PDF 中の図の色替え、誤字や脱字の修正をしたい」 PDF ファイルの軽微な修正は Illustrator で行う

大成建設では、InDesign を外部のエディトリアルデザイナーとの共通レイアウトツールとしている。プレゼンシートの作成では、CAD データはもちろん、画像データ、CG パースなど、さまざまな種類や形式のデータを扱うことが多い。そこで、InDesign は PDF ファイルを直接レイアウトできることに着目。DTP 作業を行う際は PDF を各ソフト間の中間ファイルとして利用している。加えて CAD で作成し、PDF で出力した図面ファイルは、Illustrator で開いて修正できる。例えば、諸室の色分けや、ゾーニングの色分けを施した図面の色替え、誤字や脱字の軽微な修正程度は、CAD に戻らず Illustrator だけで済むので重宝する。

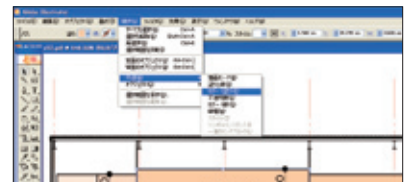


VectorWorks で平面図に着色し、PDF で出力する。

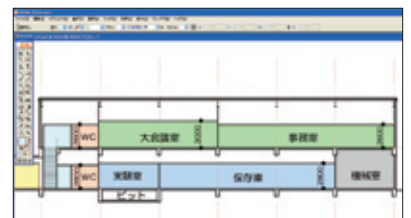


同色の部屋がすべて選択される。カラーピッカーで変更したい色を選択する。

部屋の色が一括して変更された。PDF で保存する。



PDF ファイルを Illustrator で読み込む。変更したい部屋の色を 1 箇所選択し、[選択]メニューの[共通]-[カラー(塗り)]を実行する。



# IllustratorのSVG出力機能に着目 ハイパーリンクを活用して、 複雑な調査プロセスの視覚化に成功

複雑な地質環境調査プロセスを  
視覚化するシステムを構築

調査に約20年、建設に約10年、その後約50年の操作を経て閉鎖。閉鎖後の監視——。特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律を受けて設立された原子力発電環境整備機構が想定する高レベル放射性廃棄物処分の事業スケジュールだ。

「10万年を超える安全評価も要求される」（橋本秀爾氏）ように、地下300m以深に建設する施設の立地点の選定では、その場所が適切かを探る地質環境調査が重要だ。だが、「調査には多分野のエキスパートがかか



solution

01

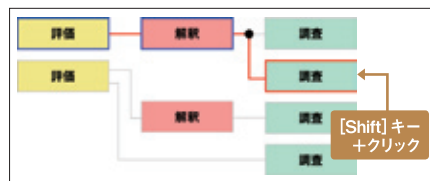
「複雑な情報の流れから必要な情報だけを視覚的に確認できるシステムは作れないか」

ハイパーリンクを応用した「ITベース・調査システムフロー」を開発

Illustrator上でレイアウトしながら作成したフローチャート、各オブジェクトに付与したID、SVG形式によるファイル出力、自社開発の自動処理プログラム技術などを組み合わせて作成したシステムが「ITベース・調査システムフロー」だ。

ハイパーリンク機能を実現し、データベースに収められた情報ファイル(PDF/Word/Excelなど)を呼び出す。

画像提供 ● 財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター



マウスで任意の調査項目を選択すると、調査後にとるべきプロセスの色が変わる。これによって、あるプロセスがどの情報を用いて解釈/評価されるか、そのプロセスからのアウトプットは何に用いられるかといった相互関係を視覚的、感覚的に理解できる。

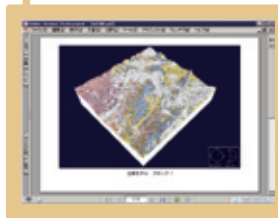


マウスで項目をクリックすると、調査や評価結果などの情報が呼び出され、別ウィンドウとして表示される。

文献情報

調査技術

3次元地質モデル





副主査  
佐藤晶子氏



大熊史子氏



橋本秀爾氏

社名 ● 株式会社大林組  
URL ● <http://www.obayashi.co.jp/>  
設立 ● 1936 (昭和11) 年12月  
取締役社長 ● 脇村典夫  
東京本社 ● 東京都港区港南2丁目15番2号  
本店 ● 大阪府大阪市中央区北浜東4番33号  
従業員数 ● 9,646名 (2005年3月現在)  
事業内容 ● 国内外建設工事、地域開発／都市開発／海洋開発／環境整備／その他建設に関する事業、およびこれらに関するエンジニアリング・マネージメント・コンサルティング業務の受託、不動産事業ほか

わかります。空間的／時間的な隔りがある上、立地点でデータを取得する人、データを解析／評価する人なども関与するため、関係者間でのコミュニケーションもとりにくい」(佐藤晶子氏)のが悩みだ。大林組は、原子力環境整備促進・資金管理センターとともに、複雑な地質環境調査のプロセスを整理し、各調査プロセスに関連する詳細情報を参照できるシステム「ITベース・調査システムフロー」を構築。地質環境調査における計画立案、管理、およびコミュニケーションのツールとしての活用を図っている※。(→ solution 01)

※経済産業省の委託事業として原子力環境整備促進・資金管理センターが受託した業務の一部として実施。

## IllustratorのSVG出力機能に着目し、作図ツールに採用

システムの制作では、Illustratorがメインツールとして使われている。作表ツールとして身近なExcelではない理由を、「初めにSVGありきなんです。『GUIを実現した重層的なシステムを構築するならSVGだ』との当社開発部門の意見を尊重し、SVG出力に対応したグラフィックスツールならIllustrator」となったからだと、大熊史子氏は話す。もちろん、複雑なフローチャートを効率的に見栄えよく作るのに、Illustratorの作図／編集機能も大いに貢献している。(→ solution 02)

システム作成の大まかな手順は次のようなものだ。調査プロセスを整理し、Illustratorでフローチャートを作成。オブジェクトに名前を付けて、SVG形式で出力する。(→ solution 03) 自社開発のSVG処理プログラムで、名前から認識／抽出したプロセスと情報ファイルを結び付け、スクリプトファイル、HTMLファイル、スタイルシートを生成。閲覧はアドビ システムズが無償公開するSVG ViewerをプラグインしたWebブラウザで行う。

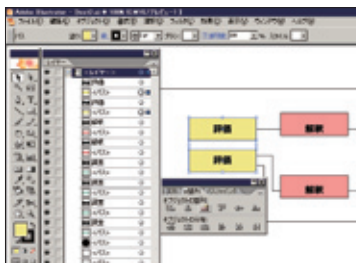
最終処分施設の建設は喫緊の課題だが、建設地の選定には綿密な調査、適切な解釈と評価が不可欠。システムがそれらの履行支援として活用されることを期待したい。

### solution 02

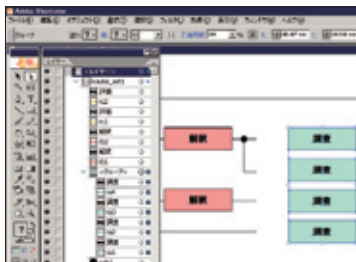
「詳細かつ複雑な図を効率よく作成したい」  
**Illustratorの各種  
レイアウト機能を活用する**

フローチャートの各オブジェクトは、Illustrator上でおおまかにレイアウトしながら作成。ひととおり入力を終わったら、整列機能で、オブジェクトの位置を整形する。

レイヤ別にオブジェクトを分けて編集しやすくする、各パスの表示／非表示を行って、現在編集集中のオブジェクトだけを表示させるなど、老舗のベクターグラフィックツールらしく図形編集機能も充実している。



目分量で作成した四角や点、線のオブジェクトは、オブジェクトの整列／分布機能を使い、垂直／水平方向に整列、分布など、自由自在に整形可能だ。



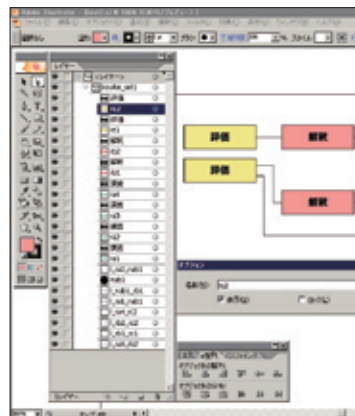
グループ機能で関連するオブジェクトをひとまとめでにする。

### solution 03

「図形に名前を付けてXML化したい」  
**オブジェクトにIDを付与し、  
SVG形式で出力**

SVG (Scalable Vector Graphics)形式は2次元グラフィックスをXML形式で記述する規格で、図形やテキストなどのオブジェクトをグループ化する機能がある。

本システムではこれを利用して、Illustratorから出力されたSVGファイルからフローチャートがどう流れているかといった情報を抽出している。個々のオブジェクトを認識させる必要があるため、Illustrator上で各オブジェクトにIDを付与する。



レイヤーパレット上のオブジェクトはすべて「パス」という名前で表示されている。名前をダブルクリックして「オプション」ダイアログボックスを開き、IDを入力していく。このフローチャートを構成する主なオブジェクトは、プロセスを表す四角形 (rectangle)、分岐を表す点 (node)、プロセスをつなぐ線 (line)の3種類。英語名の頭文字を使った一定の規則に従って命名することで、必要なオブジェクトを見つけ出し、挙動を制御する。

「せっかく撮影した竣工写真が曇り空で映えない」

## レイヤーを使って別に用意した青空写真に差し替える

晴れがましい竣工写真は青空の下で撮影したものの。とはいえ、曇天下で撮影せざるを得ないこともある。このようなときは、曇り空の部分だけを切り抜き、別に撮影しておいた青空の写真に差し替えよう。

まず曇り空に選択範囲を作成する。曇り空部分だけの選択範囲を作る方法はいくつかあるが、ここではクイックマスクを使って、建物の部分だけをペイントツールで塗りつぶし、選択範囲を作成している。

選択範囲が出来上がったら、レイヤーマスクを作成し、空の部分が透明な状態にしておく。別に用意しておいた青空をレイヤーとして挿入すれば合成は完成だ。レイヤーの重なりを使うことで、自由な合成や、より高度な補正も行えるようになる。

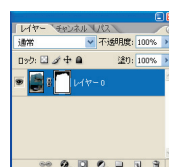
レイヤーマスクは後から修正可能で、挿入したレイヤーも移動や拡大／縮小が行えるので、納得の画像が出来るまで何度でも試せるのは便利だ。



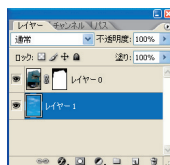
**01** 撮影画像の空の部分に合わせて選択範囲を作成する。Photoshopにはクイックマスクや抽出ツールなどの選択ツールが用意されている。



**02** 選択範囲からレイヤーマスクを作成する。空の部分が透明になっているのがわかる。



**03** 別の写真を挿入する。透明だった部分に青空が表示される。レイヤーパレットでは上下に配置され、位置や大きさを自由に変更可能。



**04** 建物にかかる電線は邪魔。スタンプツールを使えば消去できる。

## 「逆光で建物のディテールが不明瞭に」 シャドウ・ハイライト補正で、 暗い部分を明るくする

太陽に向かって撮影すると手前の被写体が暗くなってしまふ。このような写真は補正ツールのシャドウ・ハイライトで修正しよう。

通常の補正では暗い部分に合わせて補正するため、ほかの部分の明るさも変わってしまふ、空が白くなってしまふ。しかし、シャドウ・ハイライトでは暗い部分の明るさだけを補正し、コントラストを調整できるので、逆光写真の補正に最適だ。



**01** 手前にある建物が暗くなってしまふ、何が写っているのかよくわからない状態。[イメージ]メニューの[色調補正] - [シャドウ・ハイライト]を実行する。

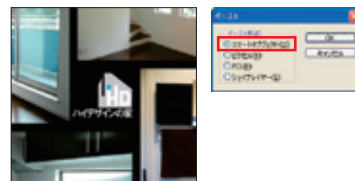


**02** 画面を見ながら、スライダーを動かして調整していくと、暗い部分の画像だけが明るく補正される。逆に白飛びしてしまった画像を暗くすることも可能だ。

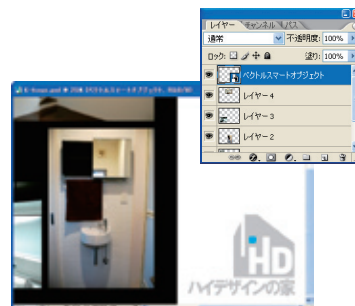
## 「配置済みのロゴの大きさを変えたい」 スマートオブジェクトで サイズ変更は自由自在

Illustratorで作成したデータをPhotoshopで扱うには、データをビットマップ化する必要があった。しかしCS2で採用されたスマートオブジェクトによって、Illustratorで作成したデータをそのまま配置可能になった。後からサイズ変更しても劣化せず、ダブルクリックすれば、Illustratorで開いて編集することも可能だ。

ロゴデータや図面など、データのクオリティを落とさずに画像内にレイアウトしたいときには特に重宝する機能だ。



**01** Illustrator CS2上で挿入したいオブジェクトを選択してコピーする。それをPhotoshop CS2のドキュメント上にペーストすると、スマートオブジェクトを選択できるようになる。



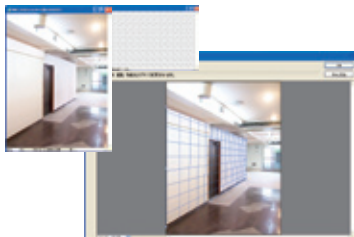
**02** Photoshop上にペーストした後にロゴを拡大しても画像は劣化しない。スマートオブジェクトを再編集することも可能だ。

technique **04**  
Photoshop

「張り替え後の壁イメージを把握したい」

## Vanishing Pointで テクスチャを貼付する

例えば壁のタイルを張り替えたり、壁紙を変更する場合、タイルやテクスチャの見本帳から張り替え後の壁をイメージするのは難しいものだ。こんなとき、Photoshop CS2のVanishing Point (バニッシングポイント) を使えば、3次元ソフトがなくても、奥行きのある場所へのテクスチャ貼り付けや曲面に合わせた変形が行える。張り替え後の壁を把握したり、シミュレーションの強力な武器になる。



**01** 建物の壁面を写した写真と、平面の素材をあらかじめ用意し、画像をいったんコピーする。そこからVanishing Pointを使い、奥行きをついたパースに合わせてグリッドを作成する。

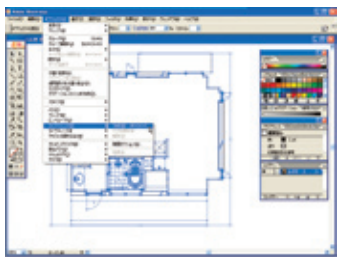


**02** グリッドが出来上がったなら、そこにあらかじめコピー(クリップボードに保存)した画像をペーストし、画像位置をドラッグで調整する。

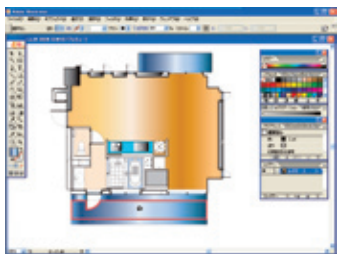
technique **06**  
Illustrator

「平面図に色を塗りたい」  
ライブペイントに  
変換して着色

CADで作成した平面図を用途別に色分けする場合、部屋の輪郭に合わせたカラーの矩形を別途作成して、着色するのが一般的だろう。しかし、平面図をIllustratorに読み込んでライブペイント化すれば、塗りつぶしツールで塗り絵感覚で着色を行える。塗りつぶしにはパターンやグラデーションも利用できるので、フローリングを表現したり、テクスチャとグラデーションを組み合わせたよりリアルな平面図も作成可能だ。



**01** 図面をIllustratorで開いて全体を選択。ライブペイントオブジェクトに変換する。DXFやDWGファイルの読み書きが可能だ。



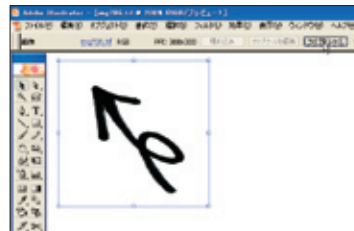
**02** 平面図の上からライブペイントツールを使って着色していく。パターンやグラデーションも利用できる。

technique **05**  
Illustrator

「手書きのスケッチを素材に使いたい」

## ライブトレースで スキャン画像をベクター変換

筆で書いたイラストや、ペン書きのサインなど、アナログのイメージを利用したいときは、Illustrator CS2のライブトレースの出番だ。スキャナで読み込んでベクター化してしまえば、着色はもちろん変形も可能になる。逆に、Illustratorで作成したオブジェクトを筆タッチに変換したい場合はブラシを使う。手書きパースをスキャナで読み込み、黒の輪郭だけをライブトレースでベクターデータに変換し、Illustrator上で着色するテクニックもある。



**01** あらかじめ読み込んでおいた画像をIllustrator CS2で開き、ライブトレースを使って変換。白黒だけでなくカラーのイメージもベクター化できる。

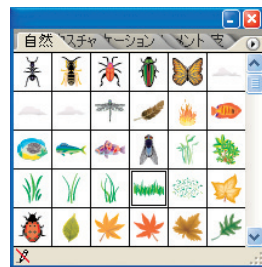


**02** ベクター化した素材は、Illustrator上で自由に変形したり着色するなど、より多彩な表現が可能になる。

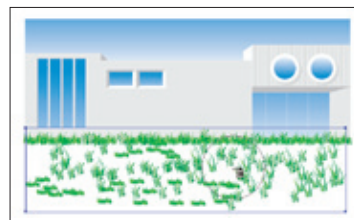
technique **07**  
Illustrator

「植栽やアイコンを配置したい」  
バリエーション豊富な  
シンボルライブラリを利用

Illustratorには「自然」「テクスチャ」「コミュニケーション」などのジャンル別に、ちょっとした地図を作成したり、ホワイトスペースを埋める飾りに使えるようなシンボルライブラリが用意されている。もちろん自分で作成したマークやイラストなども追加できる。植栽や人物などのシンボルを作成、ライブラリに登録しておけば、オリジナリティあふれるプレゼンシートを効率的に作れる。



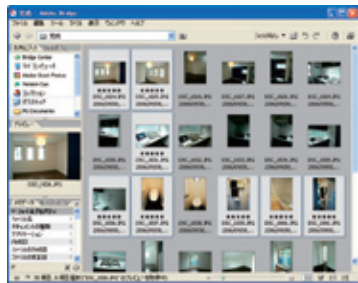
**01** 自分で作成した樹木などをシンボルライブラリにドラッグして登録。利用したいときはシンボルパレットからドラッグして配置する。



**02** シンボルブラシを使えば、シンボルを1つつ配置するだけでなく、ペイントするようにドラッグして追加していける。一度追加したシンボルは後から大きさや色、透明度の変更も可能だ。

「画像一覧を簡単に作成したい」  
**Bridgeから選んだ画像からコンタクトシートを作成**

Bridgeでは、画像ファイルやAdobe CS2のファイルを一覧できる。画像の一覧表はもちろん、使用する写真に★マークを付けておいて、必要なファイルだけを集めたコンタクトシートも作成可能だ。



**01** Bridge上では画像のプレビューの大きさを変更したり、写真の取捨選択も可能だ。複数選択した画像からコンタクトシートを作成する。

コンタクトシートでは、画像のレイアウト(用紙上に画像を縦横何枚ずつ配置するか)や、画像ファイル名の表示フォントなども指定できる。



**02** 写真の点数が多い場合には、自動的にページが分けられる。

**Adobe Creative Suite 2.3 Premiumを構成する主要コンポーネント**

entry **04** Adobe GoLive CS2

Web業界標準の最新テクノロジーに対応するWebオーサリングツール。携帯電話向けのWebサイトも構築できる。多くのテンプレートが用意されており、デザインの知識がなくてもサイトを構築可能。

entry **05** Adobe Bridge

ファイルの内容を一覧しながら目的のファイルを探ることができる。CS2製品群の橋渡しの役割を果たすファイルブラウザ。サムネイルの拡大/縮小表示や、写真の検索、閲覧しながらの分類が可能だ。

entry **01** Adobe Photoshop CS2

写真の品質を向上させる色調補正やレタッチをわずかな時間で行える画像処理エンジンを備える。グラフィックス、Web、映像といったあらゆるデジタルイメージ分野の業界標準の画像編集ツール。

entry **02** Adobe Illustrator CS2

自由な曲線から構成され、幅広い表現力を持つベクターグラフィックスの作成ツール。CADとの親和性の高さ、ハンドリングのよさから、多くのイラスト/グラフィックス/設計現場で導入されている。

entry **03** Adobe InDesign CS2

日本語組版に完全対応したプロフェッショナルレイアウトツール。IllustratorやPhotoshopデータをそのままレイアウトでき、大量のページを扱える。PDF書き出しツールとしても活用できる。

entry **06** Adobe Stock Photos

多くのストックフォトを縦断して目的の画像を検索/購入できるツール。日本語のキーワードを入力するだけで目的の画像が一覧表示される。ダウンロードしてカンパ用の使用や購入も一括して行える。

entry **07** Adobe Acrobat 8 Professional

各種ファイルフォーマットからPDFへの変換、複数のPDFファイルをもとめるような作業から、PDFへの閲覧制限などのセキュリティ設定も行える。PDFをフル活用するための必須ツールだ。

**Adobe Creative Suite 2.3 日本語版必要システム構成**

**[Windows版]**

CPU ● Pentium IIIまたは4クラスプロセッサ  
OS ● Windows 2000 (SP4) / XP  
メモリ ● 384MB (アプリケーション1つとAdobe Bridge、Version Cue 使用時) / 複数アプリケーションの動作には1GB以上必要  
ハードディスクの空き容量 ● Premium: 5.5GB以上 / Standard: 2GB以上  
その他 ● 1,024×768ドット以上、16bitカラー以上のモニター/ビデオカード(24bitカラー以上推奨)

**[Macintosh版]**

CPU ● PowerPC G4またはG5プロセッサ  
OS ● Premium: Mac OS X v10.4.3 / Standard: Mac OS X v10.2.8~10.3.8 (v10.3.4~10.3.8推奨)、Java Runtime Environment 1.4.1  
メモリ ● 384MB (アプリケーション1つとAdobe Bridge、Version Cue 使用時) / 複数アプリケーションの動作には512MB~1GB以上推奨  
ハードディスクの空き容量 ● Premium: 5.5GB以上 / Standard: 3GB以上  
その他 ● 1,024×768ドット以上、16bitカラー以上のモニター/ビデオカード(24bitカラー以上推奨)

問合せ先 ● アドビ カスタマーサービス 0570-67337または03-5350-0407 (電話受付時間9:30~17:30(土、日、祝祭日およびアドビ システムズ指定休日を除く)) <http://www.adobe.com/jp>  
企画・制作 ● エクスナレッジ広告部  
提供 ● アドビ システムズ株式会社

装丁・本文デザイン ● 新保慶太 (nanilani)  
取材・文 ● 樋口泰行 (樋口デザイン事務所) + エクスナレッジ広告部  
撮影 ● 谷本 夏 (スタジオトラック72)  
印刷 ● 大日本印刷株式会社  
©株式会社エクスナレッジ

**【無断転載等の禁止】**

本書掲載記事内容(本文、図表、イラスト、写真データ等)を当社および著作権者の承諾なしに無断で転載(引用、複写、翻訳、データベースへの入力等)することを固く禁じます。  
※本書に掲載された製品名、会社名等は一般に各社の商標または登録商標です。